

02 最新安全装置のあれこれ

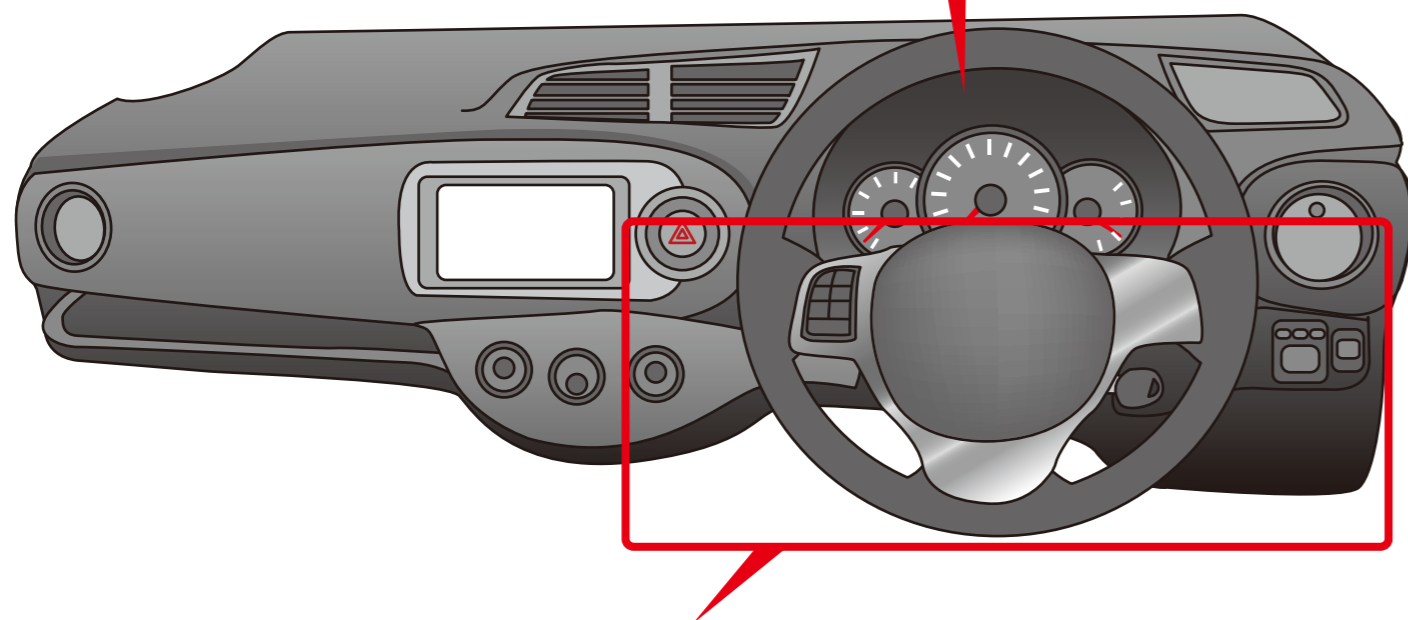
12月中頃、自動ブレーキシステムを装着している車両で追突事故が発生しました。事故の内容として、信号の変わり際、「前車はそのまま行かろう」と思い込み、自車も続こうとしたが、実際には前車が停車した為急ブレーキも間に合わず追突したというものです。自動ブレーキシステムはOFFになっていました。

レンタカー会社は、安全装置については常時ONにしたままエンドユーザーに貸し出ししています。しかしながら、エンドユーザーが、警告音や警告案内表示を鬱陶しく思いOFFにしたまま返却をしていることがあります。こうした先進システムも常時ONになっていなければ意味がありません。引取時に安全装置がONになっているかどうかの確認(操作スイッチは、ハンドル周辺に配置されていることが多いです)をして頂きますようお願い致します。

表示例

自動ブレーキシステムがオンになっている場合、インパネにこのような警告灯が表示されることが多いです。

表示の仕方や場所、デザインはメーカーによって異なる場合もありますので、ご使用になる車両の取扱説明書をご確認ください。



ハンドル周辺にスイッチが配置されていることが多いです。

各車に装備されている従来からの安全装置といえば、エアバッグに代表されるような事故発生時の被害を最小限にするための装置(これらを総称して、パッシブセーフティを高める装置といわれています)が主流でしたが、最近では事故そのものを未然に防止する装置(同、アクティブセーフティを高める装置)が装備されている車種が増えてきました。ここでは、それら装備の一部をご紹介します。

1 走行車線をキープして自動的に車線の逸脱を防ぐ

トヨタ	レーンディパーチャーアラート
日産	レーンデパーチャーワーニング(LDW)
スバル	アクティブレーンキープ
マツダ	レーンデパーチャーワーニングシステム(LDWS)

2 車や人との衝突の危険を察知し、自動的にブレーキをかけて衝突を回避する

トヨタ	プリクラッシュセーフティシステム
ホンダ	シティブレーキアクティブシステム
日産	エマージェンシーブレーキ
スバル	プリクラッシュブレーキ
マツダ	スマート・シティ・ブレーキ・サポート(SCBS)

3 前方を走行している車に合わせて自動的に速度や進行方向を制御する

トヨタ	レーダークルーズコントロール
スバル	全車速追従機能付クルーズコントロール

4 発進時にアクセル操作を間違えての誤発進を防ぐ

トヨタ	ドライブスタートコントロール
ホンダ	シティブレーキアクティブシステム
日産	踏み間違い衝突防止アシスト
スバル	AT誤発進抑制制御&AT誤後進抑制制御
マツダ	AT誤発進抑制制御

これらの安全装置は、トヨタ・プリウス、ホンダ・フィット、日産・ノート、スバル・インプレッサ、マツダ・デミオなど、よく回送車両としてお目にかかる車種に装備されているものです。他の車種にも、モデルチェンジなどを機会に装着率が高くなっていくものと思われます。回送を開始する前に、取扱説明書を片手に装備を確認してみましょう。OFFになっていれば、ONにして下さい。